

宮城県内の少年自然の家における環境学習活動 —学校授業との連関についてのアンケート調査結果の概要—

川村寿郎*・中條 裕**・千葉文彦***・平吹喜彦*・
西城 潔****・見上一幸*****・目々澤紀子*****

Environmental Studies at the Natural Children Centers in Miyagi Prefecture:
Summary of the Questionnaire Survey on the Subject Relation with School Classes

Toshio KAWAMURA, Yutaka NAKAJO, Fumihiko CHIBA, Yoshihiko HIRABUKI,
Kiyoshi SAIJO, Kazuyuki MIKAMI and Noriko MEMEZAWA

要旨：宮城県内の3つの少年自然の家における環境学習活動の実態、各利用校での「総合的な学習の時間」や教科の学習内容との連関性、および今後の期待や要望に関するアンケート調査を実施した。277の利用校からの回答結果の概要をここに報告する。

キーワード：少年自然の家、体験活動、環境学習、総合的な学習の時間、アンケート調査

1. はじめに

環境学習として、実際の事物を対象に見たり触れたりして感じる、あるいは、観察や測定の実験をする、というような活動を通じた実体験に基づいて学習をすすめることの有効性や重要性については、これまでの多くの実践事例や指導報告などからみても、広く支持されている。しかし学校現場では、その実体験の実施が、課程進行時間や学校の立地環境などから制約されることも多い。そのため、各学校が例年利用する少年自然の家や野外活動センターなどの社会教育施設での活動は、施設周辺の豊かな自然を中心とした環境を実体験できるたいへん貴重な機会といえる。

平成14年度から導入された「総合的な学習の時間」は、児童・生徒の「生きる力」の育成をめざし、教科を横断し総合化した内容として創意工夫しながら進めることが求められている。各学校では地域や学校の特色を生かしながら、さまざまなテーマで取り組んでおり、環境学習は当初からその主要な学習テーマの一つとなってきた。全国の少年自然の家でも、立地環境を活かしたさまざまな環境学習のガイドや手引書を作成して（例えば、独立行政法人国立少年自然の家、

2003a, 2004）、「総合的な学習の時間」に対応している。そのため、少年自然の家での活動と各学校での授業とを密接に関連づけることによって、「総合的な学習の時間」のみならず教科の学習内容を含めたものとして、環境学習が実体験から理解へと効果的に展開できるとみられる。

本報告は、こうした少年自然の家での活動における環境学習、およびそれと各学校での「総合的な学習の時間」や教科における学習内容とがどのように関連しているか、それぞれの実態を調べるとともに、今後環境学習をすすめるために、施設や大学に対して何が要望・期待されているかを知る目的で実施したアンケート調査結果の概要である。特に、少年自然の家での活動と各学校での環境学習の連関性を把握することを調査の目的とした。

2. アンケート調査について

アンケートは、付録に示したような「少年自然の家と学校との環境学習活動に関する調査」と題した調査用紙を用いた。内容は、大きくみると、少年自然の家の利用形態（問1～問3）、利用の目的・理由と野外

*宮城教育大学理科教育講座，**宮城教育大学環境教育実践専修，***国立花山少年自然の家，****宮城教育大学社会科教育講座，
*****宮城教育大学附属環境教育実践研究センター

活動内容（問4～問5、問8）、学校での学習内容（問6～問7）、環境学習としての今後の取り組みと期待（問9～問12）に分けられる。

アンケート調査は、2004年4月～10月に宮城県内にある3つの少年自然の家（国立花山、宮城県立蔵王、仙台市立泉岳）を利用した小学校、中学校、特殊学校の計388校に回答を依頼した。2004年11月に調査用紙を送付し、1ヶ月の期間において2004年12月末までに277校から回答（回収率71.4%）を得た。その内訳は下記（表1）の通りである。本報告はこれらの回答校の集計結果を基にしている。

なお、上記の学校は、図1のような地域に学区をもつ。

表1. 回答校の集計結果

施設名		利用学校種内訳		
		小学校	中学校	養護学校
国立花山	147	126	17	4
宮城県立蔵王	55	41	14	0
仙台市立泉岳	75	71	4	0
計	277	238	35	4

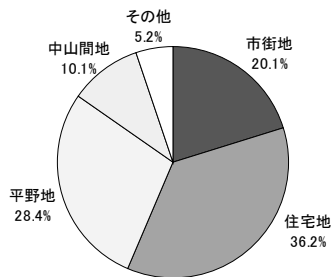


図1. 回答校の学区位置の内訳

3. 集計結果

1) 自然の家の利用形態

各自然の家を利用した学年の内訳は、図2のとおりである。小学校では特に5年生の利用が圧倒的に多い。

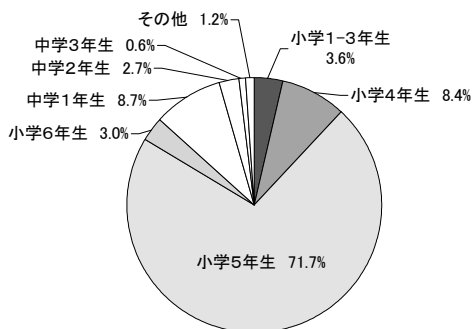


図2. 利用校の学年別内訳

利用日数の内訳は図3のとおりである。1泊2日または2泊3日がほとんどである。

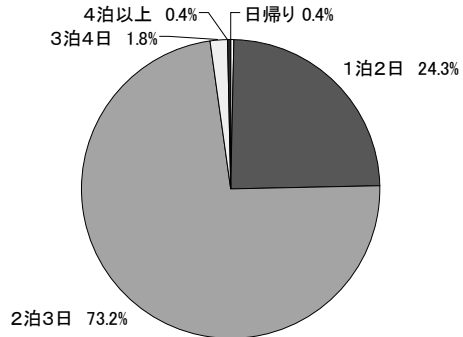


図3. 利用日数の内訳

利用時期の内訳は図4のとおりである。6月と9月の利用の割合が多い。

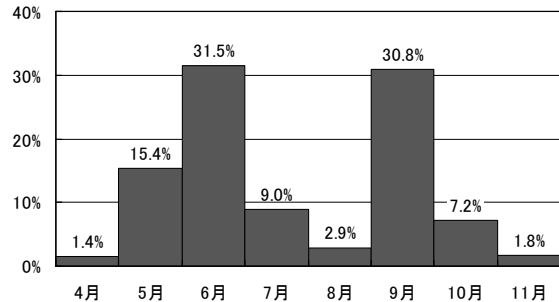


図4. 利用時期の内訳

2) 教育課程上の充当

教育課程として、自然の家での活動に充当された時間の内訳は、図5のとおりである。宿泊行事および「総合的な学習の時間」として充当されている場合が全体の8割以上となっている。

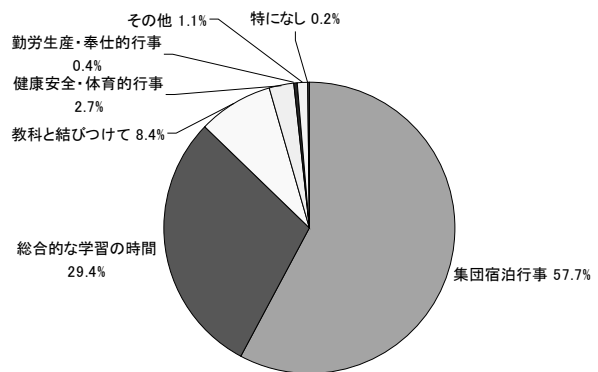


図5. 少年自然の家での活動に充当された時間の内訳

3) 少年自然の家利用の目的や理由

図6に示すように、少年自然の家の利用目的や理由として、「とてもよくあてはまる」と答えた項目のうち、「集団活動・仲間づくりの場」と「自然体験・生活体験の場」が特に高い。次いで、「周囲の自然環境が良い」と「環境が良く、施設・設備が整っている」が高い。これは、国立少年自然の家が2002年度に実施した調査結果（独立行政法人国立少年自然の家，2003b）とほぼ同じ傾向である。ただし、「周囲の自然環境が良い」がより高い割合で理由とされている点が特徴的であり、これは3つの少年自然の家とも恵まれた自然環境の中に立地していることによるとみられる。

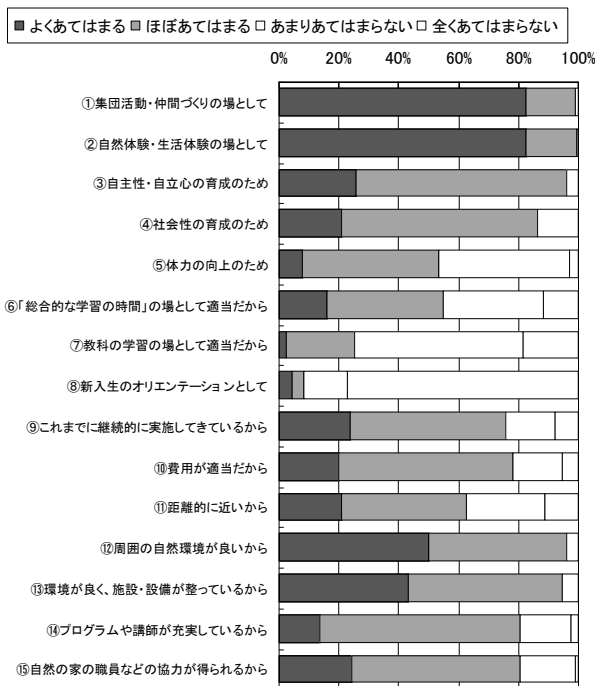


図6. 少年自然の家の利用の目的・理由

4) 少年自然の家での活動内容

自然の家で利用校が行っているさまざまな活動のうち、環境学習に関連づけられる自然体験、野外生活体験活動、自然観察調査活動、ゲームやものづくり、および社会体験活動の各内容の実施状況は、図7～図11のとおりである。

【自然体験活動】これは自然の家での活動として多く行われている。内訳として、登山、沢あそび（沢のぼりを含む）、ナイトハイキングの実施の割合が高い。

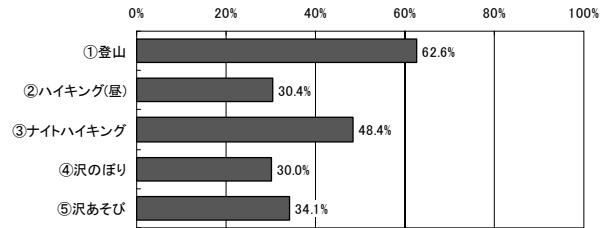


図7. 自然体験活動の実施内訳

【野外生活体験活動】野外炊事とキャンプファイアーが7割以上の実施率で、活動の中で最もよく行われている。

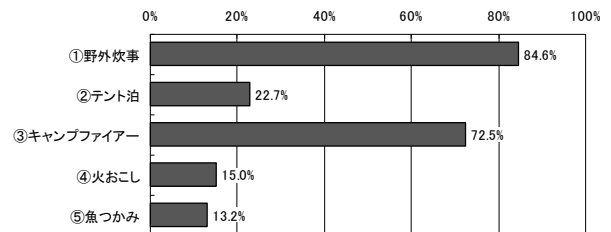


図8. 野外生活体験活動の実施内訳

【自然観察調査活動】星空観察、植物観察、水生生物観察が比較的多いが、それ以外は総じて少ない。

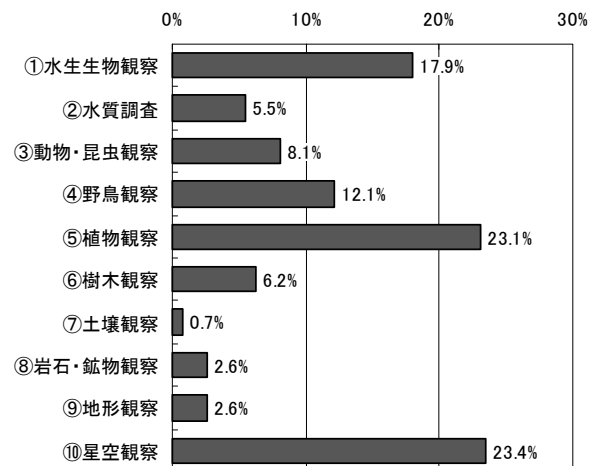


図9. 自然観察調査活動の実施内訳

【ゲーム・ものづくり】焼き板づくりとオリエンテーリングが比較的多い。

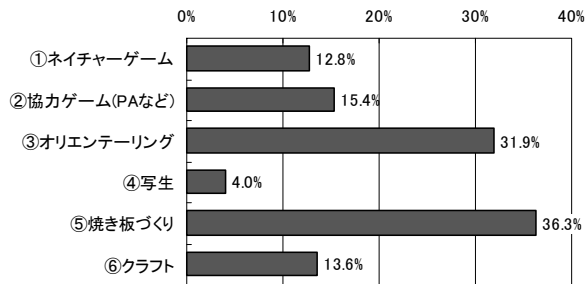


図 10. ゲーム・ものづくりなどの実施内訳

【社会体験活動】総じて少ない。

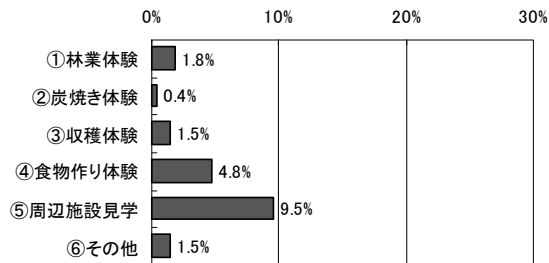


図 11. 社会体験活動の実施内訳

【環境学習資料の利用状況】3つの自然の家では、環境学習に関する活動プログラムや「総合的な学習の時間」としての活動事例集などの資料が作成されている。これらが実際の活動にどの程度参考となったかについては、図 12 に示されるとおりである。

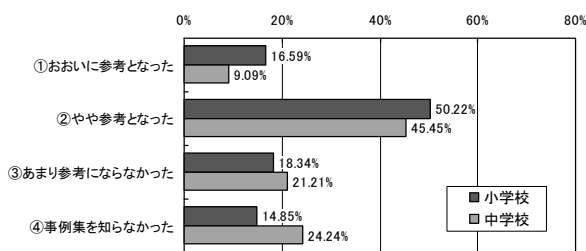


図 12. 少年自然の家で作成された環境学習資料の利用状況

5) 自然の家での活動と学習内容との関連

学習内容として、少年自然の家での活動と関連させた学習がどの時間に取り上げられたかは、図 13 に示すとおりである。小学校では「総合的な学習の時間」が最も多く、教科や学級活動の内容としても比較的多く取り上げられている。一方、中学校では「総合的な学習の時間」と学級活動の内容として多く取り上げられ、教科の内容としては少ない。

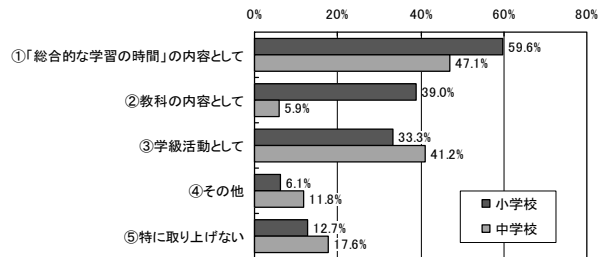


図 13. 自然の家での活動に関連した内容の学習時間の内訳

【「総合的な学習の時間」の内容】「総合的な学習の時間」の内容として取り上げた学校（学級）におけるテーマは、図 14 に示すように大別される。小学校では、利用した各自然の家やその周辺の自然に関する学習、学区域と自然の家周辺との比較による地域に関する学習が多く、次いで、自然の家での活動を含めた共同生活に関する学習と環境一般に関する学習が比較的多い。一方、中学校では、回答数が少ないものの、自然体験とならんで生活や社会性の学習が比較的多い。

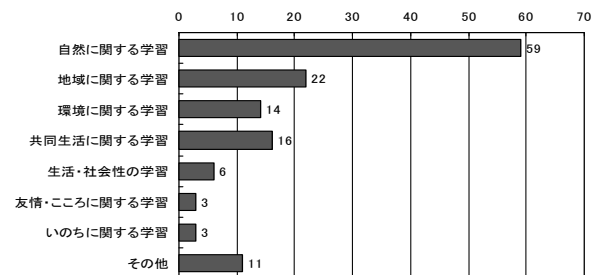


図 14. 少年自然の家の活動と関連した「総合的な学習の時間」の学習内容の内訳。横軸は同類の記述内容の数を表す

【教科の内容】教科の内容として取り上げた学校での教科の内訳は、図 15 のとおりである。理科が最も多く、次いで図工、家庭、体育、国語、道徳が多くあげられている。

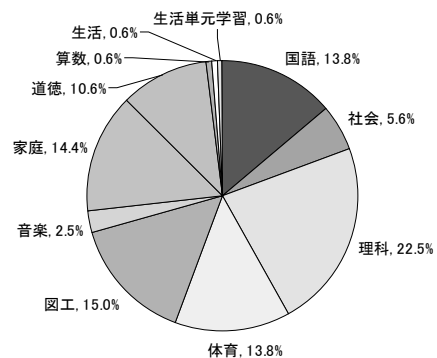


図 15. 少年自然の家の活動と関連した内容を扱った教科の内訳

【学級活動】学級内での集団活動や協力などに関する内容が多い。

【学習進行上の位置づけ】少年自然の家での活動を、学習進行上、どのように位置づけたかについては、図16に示されるとおりである。学習単元の中心または導入として、位置づけている場合が多いが、小学校では約3割が発展としても位置づけている。

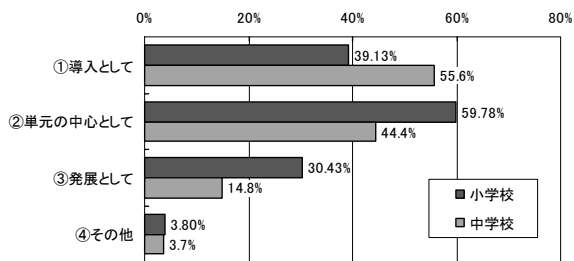


図16. 自然の家での活動に関連した内容の学習進行上の位置づけの内訳。

6) 自然の家での環境学習活動に対する意欲

自然の家の利用において、今後の環境学習に関連する活動を行う意志については、図17に示されるとおりである。概して、小学校の方が中学校よりも環境学習活動を行いたいと考えている割合が高いが、そうでない割合も全体の3割以上に達する。

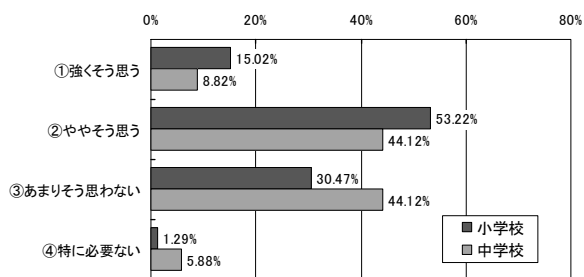


図17. 今後の少年自然の家での環境学習活動に対する意欲

具体的な活動内容としては、少年自然の家で現在実施可能な野外活動を中心に、図18に示すような希望がある。特に、水生生物観察や水質調査などの水に関連した内容が多いほか、植物観察をはじめとする樹木や森林に関する内容も少なくない。

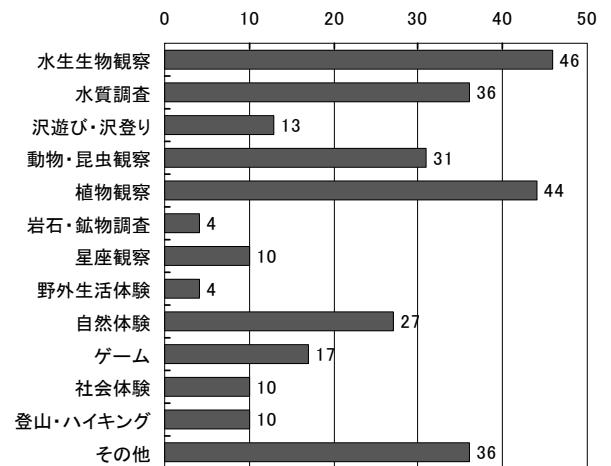


図18. 今後取り組みたい自然の家での環境学習活動の内訳。数値は同類内容の記述の数を表す。

7) 自然の家での環境学習活動に対する期待や要望

今後、自然の家で環境学習に関する活動を行う上で必要と考えられる種々の事項に対する期待は、図19に示されるとおりである。設備・備品、教材（事例集やワークシートなど）、活動場所の整備や充実、および事前説明に対する期待が特に高い。また、自然の家職員、依頼講師、ボランティア学生等による支援に対する期待も高い。

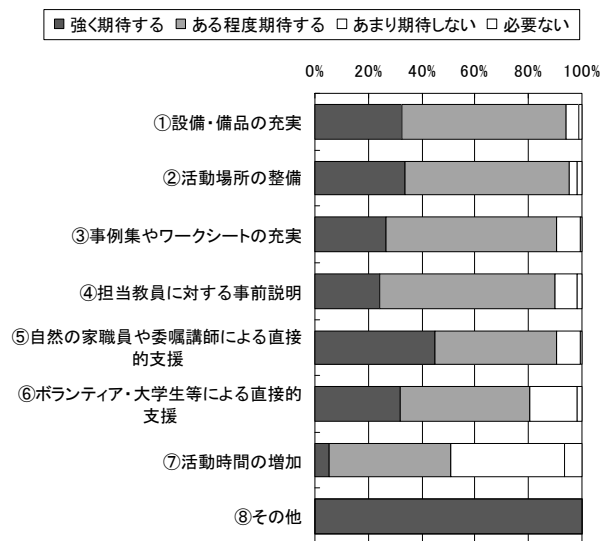


図19. 自然の家での環境学習活動で期待される内容と程度

上記の期待に関連して、少年自然の家や大学等に対する要望や希望の記述意見をまとめると、図20に示

すような内容の内訳となる。特に、自然の家での活動のプログラムや学習材の整備・充実やそれらの情報の提供・発信の充実などといった物的支援とならんで、講師やボランティア学生から児童への直接的な指導や助言あるいは指導教員への講習などの人的な支援に対する要望が多い。

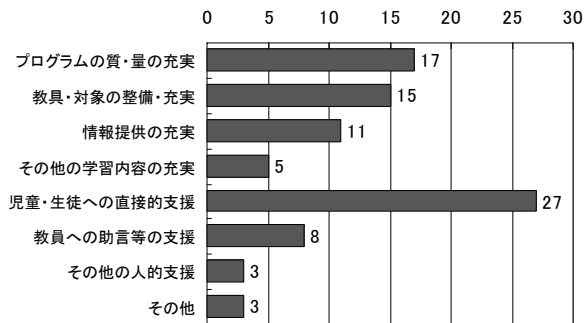


図 20. 自然の家での環境学習活動に関連した期待や要望の記述意見。数値は同類内容の記述の数を表す

4. おわりに

少年自然の家における利用校の活動については、各自然の家での実施記録等によって、状況はある程度把握しているものの、その活動内容と各学校での学習内容との関わりについては、あまり追跡されていない。今回のアンケート調査によって初めて、客観的にその状況を把握することができた。少年自然の家での活動が、「総合的な学習の時間」や教科の内容として、自然・地域・環境などを主とした学習と大きな関わりをもっていることが浮き彫りとなった。また、自然の家での環境学習活動に対する期待が高く、そのための要望として、物的のみならず人的な支援が多いこともわかった。

本報告の調査は、多様な立地環境にある宮城県内全域（一部県外も含む）の学校から得られた回答を基にしており、全国的にもあまり類例をみないものである。この貴重な調査結果については、さらに分析を加えるとともに、今後の支援や整備のあり方を考えるうえで有効に活用してゆきたい。

謝 辞

本報告を行うにあたり、国立花山少年自然の家・松岡憲雄所長、宮城県立蔵王少年自然の家・渡邊良悦所長、仙台市立泉岳少年自然の家・澁谷信彦所長、をはじめとする各少年自然の家職員の方々には、アンケート調査を行うにあたって調査内容について検討いただいた。また、利用校の活動状況や実施内容についてご教示いただくとともに、「環境学習」に関する資料等を提供していただいた。また 277 の利用校には、アンケート調査の回答に協力していただくとともに、実に多くの貴重な意見をいただいた。ここに記して、お礼申し上げる。

なお、アンケート調査には、日本学術振興会科学研究費補助金（課題番号 16611001）を使用した。

引用文献

- 独立行政法人国立少年自然の家，2003a. 少年自然の家における「総合的な学習の時間」の実践 小学校編. 71pp.
- 独立行政法人国立少年自然の家，2003b. 少年自然の家利用に関する学校の意識等調査. 39pp.
- 独立行政法人国立少年自然の家本部，2004. 国立少年自然の家でできる！「総合的な学習の時間」～プログラム事例集～. 62pp.

付 録

少年自然の家と学校との環境学習活動に関する調査

この調査は、少年自然の家での活動と、小中学校で行われている「総合的な学習の時間」や各教科で取り組まれている「環境学習」との関連性を把握し、今後の少年自然の家における活動の内容や支援等の方法改善を図るために行うものです。今回は、平成16年4月～10月の間に、宮城県内の3つの少年自然の家を利用した小中学校を調査対象にしています。

この調査の結果は、宮城教育大学において統計的に処理し分析を加えた後、概要を公表する予定であります。各学校にはご迷惑をかけないよう配慮いたしますので、ありのままにご記入ください。なお、ご回答の期限は1.2月.2.2日(水)です。どうかよろしくご協力のほど、お願いいたします。

問1. あなたの学校は、次のうちのどの地域に学区がありますか(主なもの1つ回答)
 ① 市街地 ② 住宅地 ③ 平野地 ④ 中山間地 ⑤ その他 []

問2. 自然の家を利用した学年(カッコ内に学級数)、日数、時期について、記入してください。

記入例) 利用日数: 2泊3日、日帰り 利用時期: 6月上旬

学年	学級数	利用日数	利用時期
① 小学1年	()		
② 小学2年	()		
③ 小学3年	()		
④ 小学4年	()		
⑤ 小学5年	()		
⑥ 小学6年	()		
⑦ 中学1年	()		
⑧ 中学2年	()		
⑨ 中学3年	()		
⑩ その他	()		

問3. 自然の家の利用は、教育課程上、次のうちのどれに充当した活動ですか(複数回答可)。

- ① 集団宿泊行事として
- ② 「総合的な学習の時間」として
- ③ 教科と結びつけて
- ④ 健康安全・体育的行事として
- ⑤ 勤労生産・奉行的行事として
- ⑥ 修学旅行として
- ⑦ その他 [] ⑧ 特になし

問4. 自然の家を利用した目的や理由は何か。次の項目ごとに、近いと思われる番号を1つ選んで、○をつけてください。

- | | | | | |
|-------------------------|---------|---------|----------|-----------|
| | よくあてはまる | ほぼあてはまる | あまりあてはまる | 全くあてはまらない |
| ① 集団活動・仲間づくりの場として | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 自然体験・生活体験の場として | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ 自主性・自立心の育成のため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④ 社会性の育成のため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ 体力の向上のため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑥ 「総合的な学習の時間」の場として適当だから | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑦ 教科の学習の場として適当だから | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑧ 新入生のオリエンテーションとして | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑨ これまでに継続的に実施してきているから | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑩ 費用が適当だから | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑪ 距離的に近いから | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑫ 周囲の自然環境が良いから | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑬ 環境が良く、施設・設備が整っているから | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑭ プログラムや講師が充実しているから | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑮ 自然の家の職員などの協力が得られるから | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑯ その他 [] | 1 | 2 | 3 | 4 |

問5. 自然の家では、次のうちのどのような野外活動を行いましたか(複数回答可)。

- 自然体験活動
- ① 登山 ② ハイキング(屋) ③ ナイトハイキング ④ 沢あそび ⑤ 沢あそびゲーム、ものづくり
 - ⑥ クラフト
 - ⑦ ナイチャージャーゲーム ⑧ 協力ゲーム(PAなど) ⑨ オリエンテーリング ⑩ 写生
 - ⑪ 焼き板づくり
 - ⑫ 自然観察・調査活動
 - ⑬ 水質調査 ⑭ 動物・昆虫観察 ⑮ 野鳥観察 ⑯ 植物観察
 - ⑰ 樹木調査 ⑱ 土壌観察 ⑲ 岩石・鉱物観察 ⑳ 地形観察 ㉑ 星空観察
 - 野外生活体験活動
 - ⑳ 野外炊事 ㉒ キャンプブブアィアー ㉓ 火おこし
 - ㉔ 魚つかみ
- 社会体験活動など
- ① 林業体験 ② 炭焼き体験 ③ 収穫体験 ④ 食物作り体験
 - ⑤ 周辺施設見学 ⑥ その他 []

問 6. 自然の家での活動に関連した内容は、次のうちのどのような学習内容(単元)として取り上げましたか。

① 「総合的な学習の時間」の内容として

- (テーマ:)
 (テーマ:)
 ② 教科の内容として
 (教科名: 国語、社会、理科、体育、図工、生活、道徳、その他 [])
 (テーマまたは単元:)
 ③ 学級活動として
 (テーマまたは内容:)
 ④ その他 []
 ⑤ 特に取り上げない

問 7. 上記の①～③では、自然の家の活動内容について、学習進行上、次のうちのどのような位置づけとしましたか(複数回答可)。

- ① 導入として(動機づけ、あるいは)
 ② 単元中心として(実質的活動、あるいは)
 ③ 発展として(事後の課題追求、あるいは)
 ④ その他 []

問 8. 自然の家では、「環境学習」に関する活動プログラム(ワークシートなど)や「総合的な学習の時間」として取り組める活動事例集などを作成していますが、これらは実際の活動にあたって参考となりましたか。

- ① おおいに参考となった ② やや参考となった ③ あまり参考にならなかった
 ④ 事例集を知らなかった

問 9. 自然の家の利用において、今後、「環境学習」に関する活動を行いたいと思いますか。

- ① 強くそう思う ② ややそう思う ③ あまりそう思わない ④ 特に必要ない

問 10. 問 9 の①と②に記した方は、具体的にどのような活動内容を行いたいと思いますか。問 5 の項目を参照して、自由に記入してください。

<調査は裏面につづきます。>

問 11. 自然の家で「環境学習」に関する活動を行う場合、今後さらに期待するものは何ですか。次の項目ごとに、近いと思われる番号を1つ選んで、○をつけてください。

	強く期待する	ある程度期待する	あまり期待しない	必要ない
① 設備・備品の充実	1	2	3	4
② 活動場所の整備	1	2	3	4
③ 事例集やワークシートの充実	1	2	3	4
④ 担当教員に対する事前説明	1	2	3	4
⑤ 自然の家職員や委嘱講師による直接的支援	1	2	3	4
⑥ ボランティア・大学生等による直接的支援	1	2	3	4
⑦ 活動時間の増加	1	2	3	4
⑧ その他 []	1	2	3	4

問 12. 「環境学習」に関連して、少年自然の家や大学等に対する要望や希望がありましたら、自由に記入してください。

<さしつかえなければ、このアンケートの記載者を次の中から選んで、○をつけてください。>

- ① 校長 ② 教頭 ③ 教務主任 ④ 学年主任 ⑤ その他の教職員

<調査は以上です。ご協力ありがとうございました。>
 宮城教育大学環境教育実践研究センター
 国立花山少年自然の家